

外濠市民塾

SOTOBORI SCHOOL FOR CITIZEN

第14 回外濠市民塾 / 第3回オンラインレクチャー

1. 実施概要
2. レクチャー詳細
3. アンケート結果
4. 所感

1. 実施概要

実施要項

日時・会場

日時：2021年10月27日 (水) 18:30 ～ 20:00

場所：ZOOM ミーティングによるオンライン開催、2021 年 11 月末まで動画公開

レクチャー概要

講師：元千代田区立日比谷図書文化館学芸員・早稲田大学人間総合研究センター 研究員 後藤 宏樹氏

「タイムトリップ江戸から東京へー千代田と江戸城外堀の風景ー」

主催

外濠市民塾実行委員会

スタッフ・協力

外濠市民塾実行委員会

委員長

陣内秀信 (法政大学)

福井恒明 (法政大学)

郷田桃代 (東京理科大学)

小松妙子 (法政大学)

高道昌志 (東京都立大学)

亀田和宏 (大日本印刷)

廣田幸司 (大日本印刷)

田崎渉 (電通 tempo)

運営協力

法政大学エコ地域デザイン研究センター

東京理科大学外濠及び神楽坂地域調査研究推進室

東京都立大学大学院都市政策科学域 外濠研究チーム

法政大学江戸東京研究センター

三輪田学園

日本大学理工学部まちづくり工学科歴史まちづくり研究室

中央大学理工学部都市環境学科河川・水文研究室

新宿区立四谷図書館

大日本印刷ソーシャルイノベーション研究所

電通 tempo

2. レクチャー詳細

時程

18:30 ～ 18:40 冒頭挨拶

福井 恒明 先生 (法政大学教授)

18:40 ～ 20:00 講演

後藤 宏樹 氏

(元千代田区立日比谷図書文化館学芸員・早稲田大学人間総合研究センター 研究員)

レクチャーの様子



講師：後藤 宏樹 氏

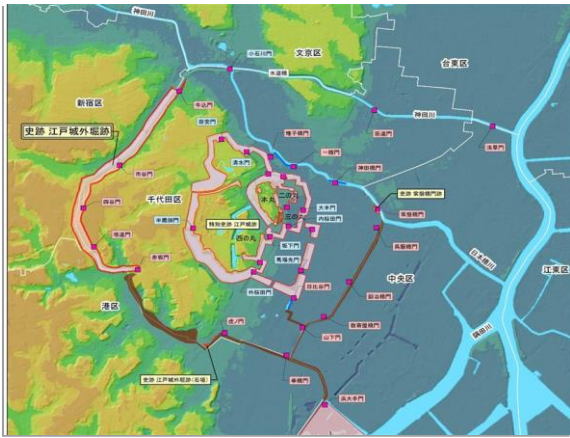
(元千代田区立日比谷図書文化館学芸員・早稲田大学人間総合研究センター 研究員)



レクチャーの様子

レクチャーの要旨

「タイムトリップ江戸から東京へー千代田と江戸城外堀の風景ー」



出典) 千代田区・港区・新宿区「史跡江戸城外堀跡保存管理計画書」

江戸城は、武蔵野台地と日比谷エリアを埋め立てて縄張りされた城郭である。都心でありながら、他の近世の城郭と比べても、堀の残り方が良い。



出典) 講演者撮影

全国の大名につくらせた石垣や堀のつくり方に着目すると、西側（台地側）と東側（低地側）では、つくり方が違うため、風景の違いを楽しめる。



出典) 学研「江戸城」(講演者加筆)

江戸城惣構と大坂城惣構を比較すると、江戸城は大坂城の4倍近い大きさであった。その分、多くの石垣が必要であり、伊豆半島の丁場のものを用いた。



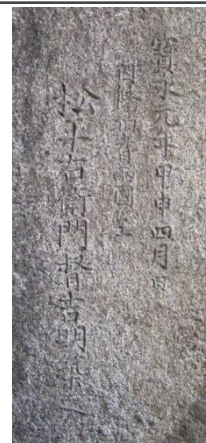
出典) 講演者撮影

江戸城の皇居外苑などは、特別史跡江戸城に指定されており、大手門などの各城門や建造物が、文化財指定はされていないものも含め、多く残っている。



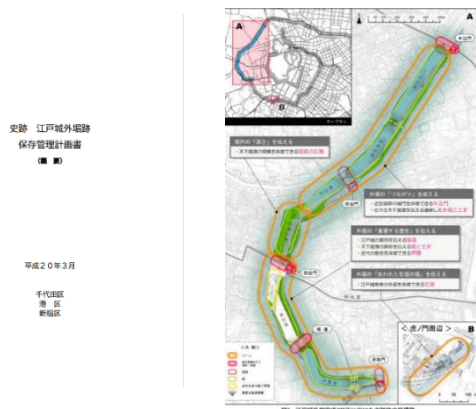
出典) 千代田区「江戸城の考古学Ⅱ」

宮内庁が石垣の修理を行う中で、江戸の町人が石垣づくりに参画していたことがわかった。この石垣は、現在、公開されている範囲に存在する。



出典) 宮内庁・千代田区「特別史跡江戸城中之門修理工事報告書」

中之門櫓台石垣の発掘調査では、寛永元年に、その後の池田家が石垣の修復を行ったことがわかった。



出典) 千代田区・港区・新宿区「史跡江戸城外堀跡保存管理計画書」

江戸城外堀跡保存管理計画では、史跡の特徴と目標を「近世最大の城郭を受け継ぐ東京 再発見」としている。



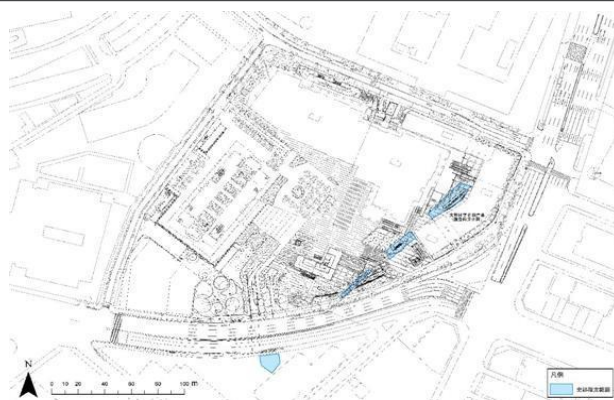
出典) 講演者撮影

新見附は、土手から土手までの距離が約100mもある堀である。このような水辺・堀景観を、地域の景観として伝えていく必要がある。



出典) 講演者撮影

外堀公園の堀は、埋められてしまったが、堀の深さを広場の両脇の土手の高さから感じることができ、天下普請の工事の大きさ、工事の苦勞さを感じることができる。



出典) 文部科学省構内遺跡調査会 2006 『文部科学省構内遺跡.2』

真田堀は現在、埋め立てられ、グラウンドになっている。しかし堀は、線路などによって壊されていない。そのため、グラウンドからの景色は当時の水面からの景色に近い。



出典) 講演者撮影

外堀を上から見ると、直線的ではなく、自然の地形を利用していることがわかる。またこの場所は、桜と電車を見ることができ、現在でも名所とされている。



出典) 講演者撮影

真田堀の土手は、台地を深く掘りこんだ際の土でつくられており、3m程度ある。一方、牛込門は、自然の谷地形を調整したのみで、土手が低い。このように外堀は、歩くだけで地形を体感することができる。



出典) 講演者撮影

江戸城外堀跡には以下のような景観の特徴がある。

- ①橋から外堀水面や土塁を見通す景観
- ②郭内土塁上から郭外側を俯瞰する景観
- ③郭外堀の水面・埋立面から堀周囲を見回す景観



出典) 講演者撮影

牛込門、四谷などには、石垣が残っている。また木などが、現在まで残っている場所もある。石垣などの遺構だけではなく、江戸時代から引き継がれている植生も大切にする必要がある。



出典) 講演者撮影

合同庁舎7号館では、外堀の石垣が3か所で発見され、見える化が行われた。ほかにも四ツ谷駅など、外堀を説明・保存する拠点が整備されている。



出典) 千代田区・港区・新宿区「史跡江戸城外堀跡保存管理計画書」

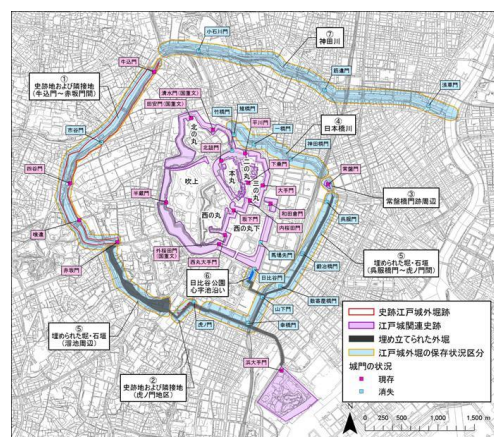
保存管理計画では、江戸城外堀跡の景観形成を以下のように示しており、具体的な方針も示されている。

- ①歴史的価値を高めるための景観形成を行う
- ②周辺環境を含めた広域的な景観形成を行う



出典) 千代田区・港区・新宿区「史跡江戸城外堀跡保存管理計画書」

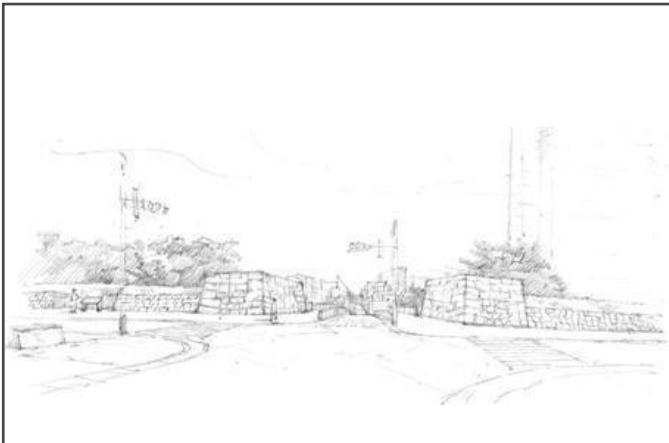
図の黄色い線は、道である。この図から、外堀を中心とした道が現在まで多く残っていることがわかる。赤い線は、坂であり、外堀周辺の地形も残っている。このように、骨格や道筋、文化財など、現在も江戸城の痕跡が残っている。これらを外堀も含め、一体的に伝える必要がある。



出典) 千代田区・港区・新宿区「史跡江戸城外堀跡保存管理計画書」

保存計画では、江戸城外堀跡保存・継承におけるこれからの課題を以下のように示している。

- ①江戸城に関わる文化財の一体的保存・継承
- ②近世・近代の重層的な歴史を示す文化財
- ③まちづくりとともに保全



出典) 千代田区・港区・新宿区「史跡江戸城外堀跡保存管理計画書」

江戸城外堀跡保存管理計画では、例えば、上記の絵のような、牛込門の両脇の石垣を望むことができるようになった将来のイメージを複数示している。



出典) 講演者撮影

大手門前の解説板、J R 飯田橋駅の外堀散歩解説板、地下鉄市ヶ谷駅の江戸城散歩コーナー、J R 四谷駅史跡展示広場といった場所に、展示室・解説板がある。



出典) 講演者撮影

日本橋川にも外堀の石垣が残っており、高速道路の建設も最小限の影響で行われた。ただし、地震の影響でつくりなおされている場所もある。



出典) 千代田区（東日本旅客鉄道株式会社）「丸の内一丁目遺跡」

東京駅の開発では、石垣をそのまま残すことはできなかったが、八重洲口のグランルーフに再現されている。



出典) 講演者撮影

前田家の刻印が良好に残っている石垣がある。ほかにもこのような、手の付けられていない石垣が残っている可能性がある。



出典) 講演者撮影

江戸城外堀の見える化のために、史跡の発掘の成果を市民の方々に見学してもらっただけでなく、江戸東京ガイドの会へのレクチャーも行われている。

3. アンケート結果

参加者の声

■参加者から8件のアンケートを回収。回答の集計結果は以下の通りです。

1. 今回のプログラムを通じて感じた感想や、新たに学んだことなどがありましたら、教えてください。
 - 江戸の歴史.
 - 外濠に係る説明版があること.
 - 外濠の歴史についてのお話を聞くことは多かったが、現在どのように活用しているのかについてお話を聞く機会が少なく、大変貴重なお話を聞くことができた。また、「外濠の見える化」という言葉が特に印象に残った。
 - 飯田橋駅の新駅舎からみた景観にも意味があったのだと知ることができ、改めて行ってみたいと思いました。
 - とても興味深くお話をうかがうことができました。
 - もう少し調べてから実際に歩いてみたいです。
 - 外濠を維持管理してだけでなく見える化を通じて活用していこうという動きがあることがわかった。これからは見える化のその先を考えていきたいと強く思った。
2. 外濠市民塾について、ご意見・ご感想をお聞かせください。また、今後実行してほしい企画がありましたら教えてください。
 - 名所を巡る探索会・見学会。
 - 江戸の知識が増えました。視聴できてよかったです。
 - 計画書の全ページがPDF化されてネット上にあるとお話でしたが、見つけれませんでした。可能でしたら、URLをご案内いただけると幸いです。(※)
 - はじめて知りました。遠方なのですがオンラインなら参加できます。
 - おぼんカウンターのイベント化。具体的に外濠をどのように活用してくかのワークショップ。
3. あなたと外濠について教えてください(複数回答可)。

近くに住んでいたことがある	2
近くに通学、通勤している	3
飲食、買い物、遊びなどで付近に来ることがある	2
今まであまり関わりなかった	2
その他	

※千代田区・新宿区・港区「史跡江戸城外堀跡 保存計画書」(平成20年3月)
のPDFファイルは、千代田区立日比谷図書文化館のウェブサイト(下記URL)に公開されています。
<http://edo-chiyoda.jp/publishment.html>

4. 外濠市民塾への参加は何回目ですか。

- 1回目 3
- 2回目 1
- 3回目以上 4

5. 外濠市民塾を何でお知りになりましたか（複数回答可）。

- 外濠市民塾ウェブサイト 3
- 知人（関係者以外）から 2
- 外濠市民塾の運営に関わっている（実行員メンバー） 3
- 法政大学江戸東京センターからのメール 1

6. 参加を決められた理由を教えてください（複数回答可）。

- 外濠に関心がある 7
- 外濠周辺地域に関心がある 5
- プログラムに興味を持った 4

7. 次回以降の外濠市民塾のイベントに参加してみたいと思いますか？

- ぜひ参加したい 6
- 予定が合えば参加したい 2

4. 所感

志村 遥奈（法政大学）

外濠市民塾のオンラインセミナーも第3回を迎え、毎回多くの方にご参加いただけたこと、そして、外堀について新たな学びを得られる機会に参加できたこと、大変喜ばしく感じております。

今回は「タイムトリップ江戸から東京へ 千代田と江戸城外堀の風景」をテーマにレクチャーしていただき、現代に引き継がれてきた外堀とその周辺の風景について改めて考えさせられるとても有意義な時間となりました。外堀が現代に引き継がれてきた背景には様々な理由があると考えられますが、使われ方や保存方法から時代に合わせて機能が変化したことによって現代にも残り続けることができているということを知りました。

今回のレクチャーを踏まえて、普段から外堀周辺で生活する中で、なんとなく眺めている外堀の風景に対してよりよくするために私ができることは何か、もう一度外濠市民塾のメンバーと議論し、江戸東京へと引き継がれてきた外堀の継承に貢献していきたいと感じました。

今泉 実里（東京理科大学）

まず、江戸城に関わる史跡は江戸城にしかないわけではない、というお話は目から鱗でした。現在の道路には江戸時代から続くものが多く、地形の凹凸にも当時の痕跡が残っているとのこと、皇居や外濠周辺を歩く際には、些細なことにも気が付けるよう注意深く歩いてみようと思います。そして中でも衝撃的だったのは、江戸城の石材は伊豆半島に設けた石丁場から船で運ばれてきており、その石丁場には大名の名前が刻印された石が残されているということです。このように、江戸城の史跡が江戸城から離れた地にも小規模ながら残っていることで、江戸城のスケールの大きさを改めて実感できるのだと思います。

また、保存管理計画のお話も聞いて、このように江戸城の史跡は何が残っているのかを仔細にわたって調査することで、何を残していくのか、どう残していくのか、というフェーズが濃密になることがよく伝わりました。今後史跡を目にしたら、何を伝えたくて残されているのかについても考えてみようと思います。

品田 康太（日本大学）

私たち外濠市民塾は「外濠でヤギを飼う！」など、このように外濠を使いたいというアイデアを絵柄にした「外濠四季絵巻」の作成や、外濠を見ながら食事や仕事をするができる「おぼんカウンター」の作成と利用といった活動を行ってきました。私はそのような活動を行っている中、今回のオンラインレクチャーの特に、江戸城外堀跡保存管理計画にある外堀の将来のイメージ図についてのレクチャーを受け、外堀に関する史跡がより多く、より良好に保存管理されることで、私たち外濠市民塾が行っているような外濠の使い方が多様になり、おもしろいものになるのではないかと思います。

今まで私は、外濠で今すぐに活用できるものを中心に外濠の使い方について考えてきました。今後は、外濠についてもっと勉強をし、まだ「見える化」されていない外濠の史跡などの「見える化」も含めた外濠の使い方を考えていきたいと思いました。

修士2年生（東京都立大学）

私は千代田区在住のため、日常生活で多く江戸城周辺を利用しています。しかし、それぞれの特徴について深く意識していませんでした。今回お話を伺ったことで改めて視点を変えて見たいと思いました。私自身知識がなく、歴史的な場所を訪れて解説されている看板を見ても、目に見える物がないと想像力を働かせることができず、歴史的な価値を実感できない経験がよくあります。しかし、お話にもあった常磐橋を先日訪れた際、橋のスケール感やそこから見える門の跡、石垣を目にし、常磐橋が架けられた頃に思いを馳せることができ、昔のまちや生活に興味を持ちました。今回ご紹介いただいたような濠の深さを実感できる展示や、見方・楽しみ方を伝える仕組みは、その場所の歴史的価値を多くの人に伝えることに役立ち、それが保存・活用への推進力になるのではと感じました。